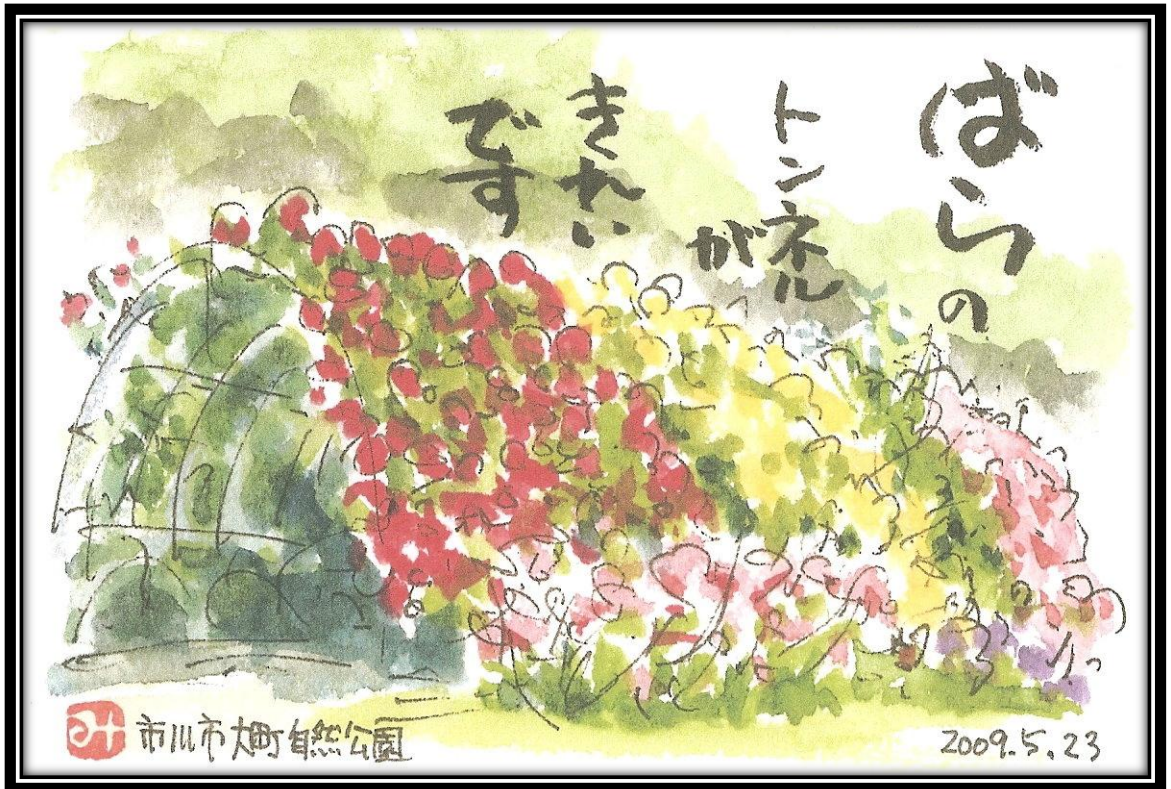


響

ひびき

真宗大谷派 道誠寺報
 No.15 特別号
 2009年6月25日 発行



絵 百田 稔さん

行事のお知らせと報告

門徒さんの一言

今月の法語

真宗仏事作法

小坊主の一言



今、いのちがあなたを生きている

**真のよりどころを
 求めて**

宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要

行事のお知らせ

7月



下記の行事はすべて会費ありません。お気軽に御参加下さい。

電車を御利用の方は、市川大野駅まで車で送迎致しますので、お寺に電話御願致します。

(TEL 047-3337-5305)

9日
(木)

- ・ 二木会
- ・ 13時～

7月の二木会
集合場所は、道誠寺です。今回は「おみがき」です。

23日
(木)

- ・ 書道教室
- ・ 15時～ 講師：青山 美智子 師
- ・ 同朋会
- ・ 17時～ 講師：生実 修 師

8月

15日
(土)

- ・ 盂蘭盆会
- ・ 13時～

非戦研修会
詳しくは、最後の頁
編集後記にて。

門徒さんの一言

道誠寺 総代

百田 稔

百田流 旅の安全の極意

旧東海道を日本橋から京都、大阪に向かって出発した私の最初の冒険お絵描き歩き旅の初日、家を出るときに仏壇に手を合わせて来るのを忘れたことに気づき、それが気になって道沿いにあるお寺やお宮に「旅の無事をお願いしま

す」と手を合わせることにしました。

最初の宿場である品川宿にはたくきさんのお寺が並んでいましたが、「旅の無事を」とおすがりしたい気持ちに変わりは無く、真宗といわず何宗といわず、すべての神社仏閣に手を合わせ、頭を下げて通り過ぎることにしました。三日目も四日目も、計画より一日早く二十一日に無事に大阪に着くまでそれは続きました。

旧東海道の歩き旅の成

功に味を占めた私は、その後、山陽道、旧中山道、奥州街道、九州路、山陰道と都合六回の冒険お絵描き歩き旅にはまり込んでしまうという幸運に恵まれましたが、二度目の旅以降も毎日、出逢ったすべてのお寺、お社とお地藏さんに手を合わせるという「百田流 旅の安全の極意」は変わっていません。もちろん出発の日の朝、我が家の仏壇に手を合わせることも忘れません。

行事の報告

6月

9日(火)

「二木会」

参加者

※ホームページでは

公表しません。

十一名参加

じゅん菜池公園にて散歩
しました。その後、百田氏
の絵画教室を見ました。

14日(日)

「日曜法話会」

参加者

※ホームページでは

公表しません。

十二名参加

講師 井上恵二

長命寺御住職、井上恵
二師に、「いろはの歌」から
「諸行無常」

諸法無我

一切皆苦」、

仏教の旗印について、法話
していただきました。



講師の井上住職 ↑

皆さんの普段の疑問に
丁寧に答えて下さいました。



耳を傾けてる門徒さん ↓

最後は特製うどん。

天ぷらと漬物も一緒に。 ↓



25日(木)

「書道教室」「写経」

「同朋会」

今月から『正信念仏偈』の写経も始めました。

「同朋会」では『歎異抄』の第一章と第二章を読み、往生極楽の道について話しました。



書道教室 参加者

※ホームページでは

公表しません。

十一名参加

同朋会 参加者

※ホームページでは

公表しません。

二十一名参加

講師 生実修

今月の法語

人生を語り合うところに、仏法の根本もまた知らされてくる

金子 大榮

『教行信証のころ』

御懇志

※ホームページでは

公表しません。

敬称略

どうもありがとうございます。ありがとうございました。

知っ得!
真宗仏事作法

Vol. 4

お盆は、正式には

「盂蘭盆会」といいます。
うらぼんえ

〈浄土真宗のお盆の迎え方〉

お内仏を清掃し、打敷をか

け、供物を備えます。迎え火・

送り火はしませんし、精霊棚

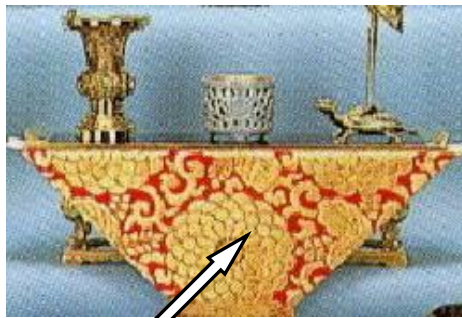
も設けません。先祖の霊の乗り

物といわれている馬や牛に見立

てたキュウリやナスは必要あり

ません。(下の絵参照)

お内仏(お仏壇)



打敷(内敷)



豆知識

『盂蘭盆経』というお経に
うらぼんきょう

出てくる釈尊の弟子・目連
もくれん

尊者の物語に由来します。
そんじや

この盂蘭盆とは、ウランバナ

(梵語・釈尊当時の言葉)を

音訳したもので「倒懸」と訳
とうけん

されています。非常な苦痛

をたとえたものです。『盂蘭

盆経』には、目連尊者が釈

尊の教えにより、餓鬼道に
がきどう

おちて苦しむ母を、百味おんじきの飲食をもって修行僧たちに供養し、その功德によって救つたと説かれます。

この経説と「先祖の霊が帰る」という日本独自の民間信仰が結びつき、現在のお盆のカタチが生まれたものだからです。

十三日には先祖の霊が家に帰り、十六日にはお墓に戻るといふ考え方です。その

行き帰りの目印として提灯が必要となり、迎え火・送り火が行われ、家庭には精霊しょうりやう棚だなを設け、先祖の位牌や仏具をおき、供養の品々を供えるようになりました。つまり、お盆を先祖供養の期間として捉えたのです。

それに対して浄土真宗は、靈魂不説の教えであり、仏さまがお墓と家庭を往復するといふ考え方をしませ

ん。

亡くなった故人は、諸仏として浄土に往生されているのです。

ですから、真宗において、お盆をお迎えするのは、亡き先祖の霊を救うといふ供養の



ためではありません。

このことから、真宗のお盆は、亡き人を偲び、わが身・わがいのちを振り返る大切な時といただくべきでしょう。

お盆に限らず、真宗における様々な仏事において、仏法聴聞をとおして、仏さまの恩を感じ取ってほしいとの先祖方の願いをいただくことではないでしょうか。



小坊主の一言

『称讚諸仏』

大学を卒業して、副住職として法務をお手伝いするようになってから、丸二年が経ちました。その間、「何で御法事は勤まるのか」、「何で、御法事にお経が読まれるのか」など、様々な疑問が生まれたのです。そして、身近にいる、父や他のお寺の御住職方にお聞きし、自分なりの御法事に対する考えを持ちました。

お経は、御法事の際、お内

仏の仏さまやお墓の前で読まれます（読誦）が、お経は、お釈迦様がお弟子に説かれた教えであるので、亡くなった故人を成仏させるために読まれるものではありません。亡くなった故人に振り向けるというより、僕たち御法事の場に集う人たちが、お経の言葉、お釈迦さまの教えを受けとめ、いただいていくためのお経なのです。ですから、世間一般的には、御法事は、亡くなった故人の成仏、供養の場という意義が強いのですが、仏法が生活の片

隅に置かれている現代では、亡くなった故人を偲んで、僕たちが仏法と出会う、数少ない大切な場であると感じます。

僕は、御法事で、『浄土三部経』の一つである『佛説阿弥陀経』を読誦します。その中に「称讚諸仏」という言葉があります。「諸仏(を・が)称讚する」という言葉です。意味は、そのまま「もろもろの仏さま(を・が)ほめたたえていく」です。御法事は、「諸仏称讚」の場であると感じます。亡くなった故人は、諸仏の中の一人として、僕た

ちが出遇い難い、仏法に出遇わせていただく、そしてそのことに、僕たちは、諸仏(故人)を称讚していくのです。また、諸仏も僕たちを常に称讚されているのです。

御法事を通して、中でも「生死」ということが、僕たちに深く見つめさせ、考えさせられることと思います。先進国の一つである現代の日本では、医療技術も発達し、食物も豊富で豊かな国であります。しかし、そのことで、僕たちは、死ということが遠ざけられ、生きるこ

とが当たり前のようになっていきます。いつ亡くなるのか分からない命を、僕たちは生きているのです。そして普段の生活でも言えることですが、現代に生きる僕たちは「称讚」の心を失いつつあると言っても過言ではないと思うのです。

真宗のお念仏「南無阿弥陀仏」は、ただお内仏、お墓の前で称えるものではありません。儀式の呪文ではないのです。蓮如上人の「ねてもきめても、いのちのあらんかぎりは、称名念仏すべきものなり。」と

という言葉からも、僕たちは、日

頃から「称讚」の心を持って、
お念仏の生活をしなくてはな
りませんね。御法事で、この命
の大切さを、また称讚の心を、
亡くなった故人、諸仏に思い出
させてもらう場であると思っ
たのです。ありがたいの気持ちで
生活を送るなんて、なかなか
出来ないことではありますが、
お念仏を申し、普段の自分の
あり方を問うてみることも大
切だと感じています。(釋光生)



☆編集後記☆

◆「真宗仏事作法」で、古くか
らやっているお盆って、一体ど
ういう意味があるんだろう、と
いう疑問で「盂蘭盆会」について
特集してみました。七月、八
月のお盆のお参りも今では、
住職と僕の二人でやっています
ので、お電話下されば、お参
りにお伺いします。

◆「門徒さんの一言」の百田稔
さんには、『響』の表紙を毎月
描いていただいております。絵
の先生です。

◆前号でお伝えした「非戦研

修会」は、八月十五日の「道誠
寺 盂蘭盆会」と同日に開催
することに致しました。皆さん
の戦争体験のお話を是非お聞
きしたいです。戦争体験をし
ていない方も参加してもらいた
いです。

その他、ご意見、ご要望等ありま
したら、お手紙やファックスでも構
いませんので、お送り下さい。

編集発行人

〒272-0804

千葉県市川市南大野1-26-31

道誠寺 釋光生

URL <http://douzyouzi.com>

電話 047(3337)5305

FAX 047(3337)5306